

2020年8月2日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

聖霊降臨後第9主日（特定13） 説教

「それ（あなた）をここ（神の御前）に持って来なさい」

〔旧約聖書〕	ネヒヤ記 9:16~20
〔使徒書〕	ロマの信徒への手紙 8:35~39
〔福音書〕	マタイによる福音書 14:13~21

主の平和が皆さんと共にありますように。

主イエスの行われた数ある奇跡の中で、5つのパンと二匹の魚を増やされて5千人に与えた奇跡、いわゆる「5千人の供食」は4つの福音書すべてに記されているただ一つだけの出来事です。したがって、この出来事がいかに福音書記者に強烈な印象を与え、重要な意味を持つ出来事であるのです。

「イエスはこれを聞くと」（マタイ 14:13）と本日の福音書の冒頭にありますが、「これ」とは何の出来事でしょうか。それはあの洗礼者ヨハネがヘロデによって殺害されたのです。ヘロデは己の権力を誇示し、立場を守ろうとするあまりに抵抗勢力を除外していきました。ヨハネはまさにそうであったのでしよう。イエスもヘロデにとってみれば抵抗勢力の最たる人物だったのかもしれませんが。

イエスはそのことを察して、舟に乗って人里離れたところに退かれたのです。しかし、イエスを慕う大勢の群衆がイエスの後を追いかけて押し寄せてきました。「イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て深く憐れみ」（マタイ 14:14）とあるようにイエス様の心は大いに動いていることが分かります。

「深く憐れむ」という言葉は重要なキーワードです。新約聖書の原語では「はらわたがちぎれる」という意味があります。「同情」、「かわいそう」、「お察し申し上げます」といった私たちが抱く感情とはまったく別の次元を意味する言葉です。そして、「深く憐れむ」という表現は神様の人間に対しての感情表現であります。イエス様はご自身のはらわたがちぎれるほど大勢の群衆の打ちひしがれている姿をみて心を寄せられているのです。そしてあの奇跡が起きるのです。

お腹のすかせた人々のために弟子たちに食べ物を準備するようにイエス様は言います。それに対して弟子たちは「ここにはパン5つと魚2匹しかありません。」と応えます。明らかに弟子たちの戸惑いと混乱が感じられる言葉だと思えます。大きなもの（5千人以上の群衆）に小さなもの（5つのパンと2匹の魚）が何の役に立つのだろうか、弟子たちの反応はごく常識的だと思えます。

しかし、奇跡は起きました。そこに居合わせた人が全員満腹するまで食事が出来、かつ残ったパン屑を集めると12の籠がいっぱいになったのです。

この奇跡物語は手品ではありません。しかし、多くの群衆はイエス様の行われた不思議な出来事に見える部分に心惹かれていきます。つまり、生理的にお腹が満たされる肉の思いによります。

「相手に好かれたいと思ったら胃袋をつかめ」などとよく言われますが、イエスは人気取りのためにこの奇跡を起こしたわけではありません。私たちは5千人の供食の奇跡から神の国への招きを頂いている良き知らせを受け取らなければなりません。

5つのパンと2匹の魚しか手元になかった。しかし、何もなかったわけではない。弟子たちはこんな小さなものを見て「こんなもの何の役にも立たない」、「どうせ無理だ」と思ってしまったのでしょうか。

私たちもとてつもなく大きな力、特に今はコロナ禍の現実の中にあって「私」の存在は小さなもので自信をなくし、戸惑いと混乱があると思います。

そんなわたしたちにイエス様は「それをここに持って来なさい」(マタイ 14:18) と呼びかけられるのです。そして、その小さなものを神の前に差し出した時にその小さな力の奇跡が起きたのです。

注目したいのは、残ったパンではなく「残ったパン屑」を集めると12の籠がいっぱいになったというのです。パンよりももっと小さなものである「パン屑」も神の国の完成には必要なもので、何一つ漏れることはないのです。

もちろん神さまは私たち人間の思い、力がなくても奇跡を起こすことが出来る方ですし、私たちもその事を決して忘れてはいけません。しかし、それにも関わらず神様は私たちに「神の国」の完成に向かって一緒に歩もう、参与するように招いておられるのです。

5千人の供食のたとえはまさにそれを示された出来事だと思います。パンと魚が増えたという目に見える部分のみに心奪われるのではなく、大切なキーワードは小さな力を差し出す事と、そして残ったパン屑です。パン屑は12の籠いっぱいになったのです。12という数字は完全数です。神の国の完成を暗示させます。私たちの社会では「パン屑」は捨てられます。しかし、神の国はそのパン屑も、いやパン屑こそが大切なのです。一緒に神の国を作っていこうと招き続けてくださっている神様、そして日々戸惑い、混乱の中にある私たちを深く憐れんで下さるイエス様が「あなたをここに持って来なさい」と呼びかけておられます。その呼びかけに心励まされて生きて参りたいと思います。